
B.Q.& B.K.

赤鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B. Q. & a m p; B. K.

【Nコード】

N 4 1 1 0 H

【作者名】

赤鬼

【あらすじ】

自身の異常に気づいた少女は、夜の中で吸血キに出会う。絶命、生誕、兆候。その夜の帳の下で、月崎涼音は覚醒する

「……………あ」

暑苦しい七夕の前夜、私はあろうことか寒さで目を覚ました。
草木も眠る丑三つ時。空は雲一つない満天の星空。

「……………さむ」

ふかふかのコートでも羽織りたかったが、クローゼットを開いて
探すのも億劫だったので却下。ベッドの上には熱帯夜を想定してぬ
いぐるみたちとタオルみたいな毛布だけ。体感温度は氷点下、彼ら
に大した効果は望めない。

「うーん……………」

少し思案して、外に出て運動することにした。温度は夏そのもの
だから、すぐ暖かくなるだろう。ついでにコンビニで暖かい飲み物
でも買えば満点だ。…………でも、あるかなあ、暖かい紅茶…………？

／1

三十度の熱帯夜、長袖にジーンズという夏然としない格好の少女
が街を走る。

「うーっ」

この温度の中、月崎 涼音は寒そうに腕を抱きながらジョギング
をしている。立っているだけで汗の噴き出すような今夜。だが、か
れこれ20分も走り続けているにも関わらず、不自然なことに涼音
は汗一つかいていない。むしろスタート時以上に体温は下がってい
る。

その状態を涼音は不思議がりながらも、凍える体を助けるために
黒と青のヴェールに覆われたよく見知っているはずの住宅街を風の
ように駆ける。

今までこんな時間に外を出歩かなかった涼音だ。全てが仮初め

めいた息遣いなき夜街に抱く感情は、怖いというよりは新しい。できるなら観察したかったが、今はそれどころではない。

極端に自分の現状を表すなら、走り続けなければ凍え死ぬほどだと涼音は考える。……その評価は的確だ。体温は三十度未満、この季節でなければすでに手遅れな、限度ギリギリの温度。

何かを感じて、涼音は夜空を見上げた。

「わぁ、満月だ……」

まっとうな少女の感想。そのとき、涼音は真実それを美しいと感じた。暗い空に穿たれた孔のような、輝く円形……と、そのとき、涼音は真実それを美しいと感じた。暗い空に穿たれた孔のような、輝く円形……と、その真ん中に飾られた人型が少女の心を掌握するのに時間はそうかからない。徐々に足の動きは小さく少なく、比例して生命機能も低下していく。

と、くん。

月に命を奪われたかのような絶命。

そして、降下してきた人型に授けられた、新しい命。

地面に降り立った男が、涼音の首に噛みついた。口付けでもするかのような密やかさで、その牙は少女の冷たい皮膚を突き破り、息絶えた血を啜る。

「っ」

男の牙が引き抜かれ、腕に抱かれた涼音が一度だけビクンと痙攣する。胎動めいたその動きは鼓動となって、

「おはようございます、姫」

新しい“月崎 涼音”を生誕させる。

これは、血に飢えた吸血姫の物語。赤い赤い炎のような、灼熱の

血が奔る夜話。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4110h/>

B.Q.& B.K.

2010年10月10日05時40分発行